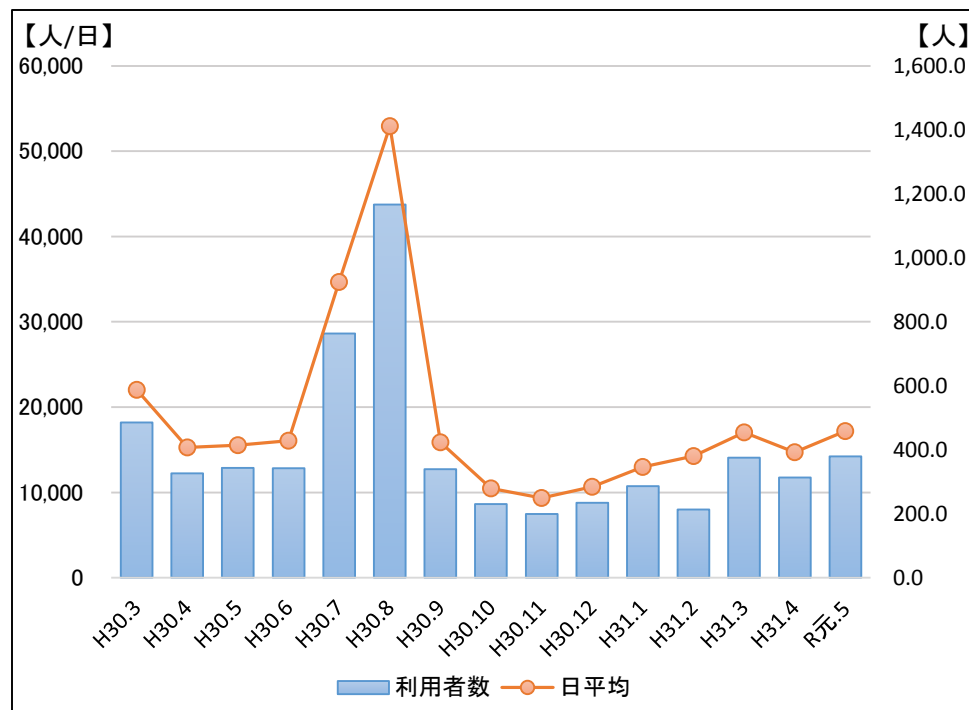


健康レクリエーションセンターの利用料金について

令和元年7月

文化スポーツ振興部スポーツ課

	平成30年度実績	主な理由
利用者数	180,748人	<ul style="list-style-type: none"> ・7月と8月の夏場は好調だが、以外は低迷 ・割引の試行(H30.12.1～H31.3.20) ・ナイトプールや夏祭りなど集客イベントを実施
収支状況	約7,852万円の赤字	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者数が計画目標に達成せず料金収入減 ・指定管理者は人件費圧縮等経費節減に努力 ・都市ガス代の高騰
寄せられた意見	市民	<ul style="list-style-type: none"> ・孫達を連れたり、家族で行くには、料金が高すぎる。 ・時間制限に間に合うかが心配。 ・セット料金で格安にしてほしい。
	議会	<ul style="list-style-type: none"> ・利用料金の検討に当たっては、利用実績やプールの利用者の声も聴きながら、料金体系を見直していくよう要望する。 ・料金が高すぎるという市民の声を聴いている。



平成30年度指定事業収支		計画	実績
収入	利用料金	208,800,000	96,911,858
	指定管理料	63,800,000	71,303,440
	その他収入	56,300,000	30,952,884
	計	328,900,000	199,168,182
支出	人件費	102,300,000	69,725,585
	設備管理費	34,900,000	34,375,870
	光熱水費	100,000,000	107,503,440
	その他支出	91,700,000	66,082,188
	計	328,900,000	277,687,083
損益		0	-78,518,901

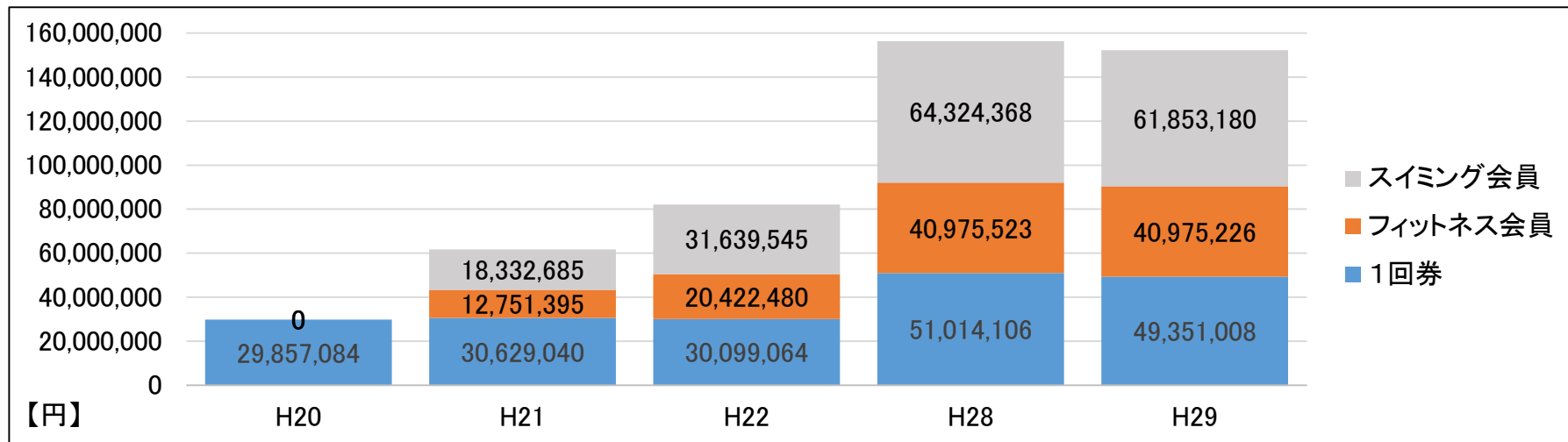
対応策	具体的な取組み
1. 収入増	<ul style="list-style-type: none"> ・本来、利用料金を引き上げて収入増を図る方法が通常であるが、現状更なる収入減が懸念 ・料金体系の工夫による利用者と収入増を図る ・指定管理者の自主事業の活性化(教室内容の充実)
2. 経費削減	<ul style="list-style-type: none"> ・雇用人数の調整(人件費は抑制可能な範囲で実施) ・環境エネルギーセンターから熱供給開始による都市ガス使用量の削減 ・電気、都市ガス契約内容の見直し

料金体系の工夫による利用者・収入増(割引試行の効果)

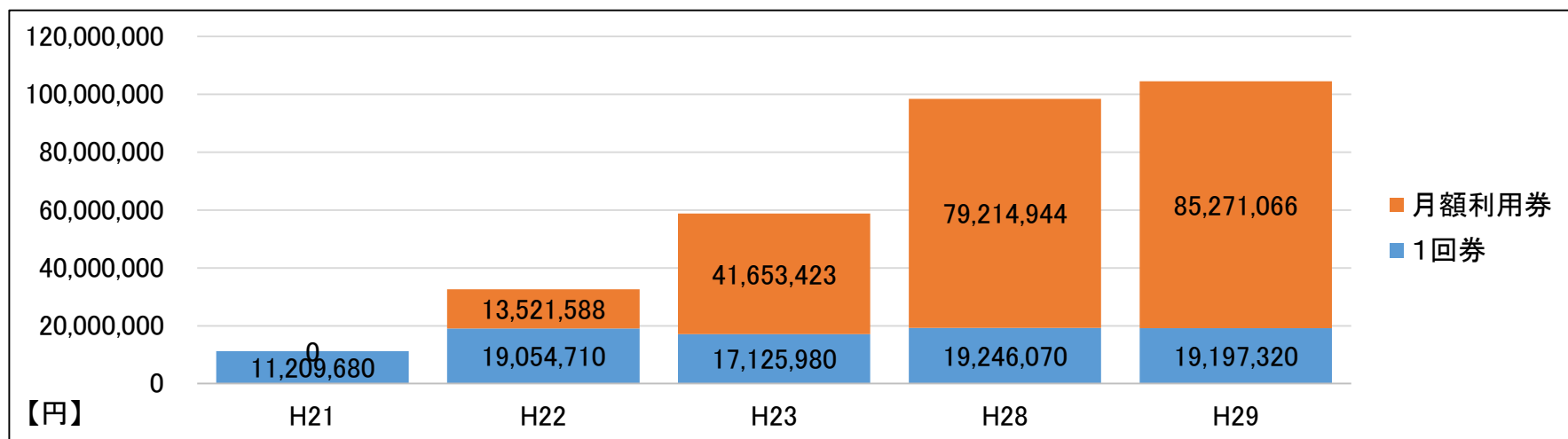
割引前と比べて、徐々に浸透し、効果が上がっている。

①平日昼間の割引 大人¥1,200→¥800 小中学生¥600→¥400	平日の変化	平均利用者数	対比	平均収入	対比
	割引前(11月)	158人/日	—	8,257円/日	—
	割引中(3月)	262人/日	166%	29,143円/日	353%
②親子利用の場合の割引(土日・祝日) 親子¥1,800→¥1,440	期間中の変化	平均利用者数	対比	平均収入	対比
	割引前(11月)	200人/日	—	51,678円/日	—
	割引中(3月)	316人/日	158%	83,439円/日	161%
③利用時間制限の解除 延長料金→¥0	滞在者の変化	平均3時間以上滞在者数	対比		
	割引前(11月)	3.8人/日	—		
	割引中(3月)	97.8人/日	2,573%		

◆栃木県上三川町のレジャープール「上三川いきいきプラザ」では、月額利用券導入から9年で導入前の5倍の収入を得ている。



◆新潟県長岡市の競泳用プール「県立長岡屋内総合プール」では、月額利用券導入から8年で導入前の約10倍の収入を得ている。



①平日昼間料金の設定 (試行結果の反映)

平日(夏季を除く)の昼間、利用者の少ない時間帯(午後1時から午後6時まで)利用料金の設定
大人¥1,220⇒**¥810** 小・中学生¥610⇒**¥400**

②セット券の設定

トレーニングルームと温浴施設のセット券の設定
(通常)¥400+¥560=¥960
1回券=¥810(高校生以上の者に限る)

③月額利用券の設定

プール、温浴施設、トレーニングルーム、スタジオの月額利用券の設定
スイミング月額=¥5,680 **フィットネス月額=¥3,240**
(高校生以上の者に限る) (フィットネス月額はプール利用を除く)

④夏季の期間短縮

夏季を3カ月間から2カ月間に短縮
7月1日から9月30日まで ⇒ **7月1日から8月31日まで**

⑤利用時間制限の緩和 (試行結果の反映)

夏季以外の土・日・祝日に設定した3時間制限を市長が定める日を除き解除(混雑が予想される日など)
超過時間1時間までごとの延長料金(大人¥400/時)を廃止

⑥水泳教室施設利用 料金の設定

水泳に係る教室や講座を受講するためにプールのみ利用する料金の設定
大人1回券=¥500 **小・中学生1回券=¥250**

⑦親子割引の設定 (試行結果の反映)

親子(祖父母・孫の組合せ含む)の利用料金を割引
1割から2割の範囲で割引を指定管理者と検討

施行日 令和元年10月1日(議決後、直ちにPRを開始する。)

※消費税率改正後の利用料金

プール、スタジオの各種教室では、新たに魅力ある事業を展開し、充実していく。

種別	事業名	
プール教室	シェイプアクア 水中リハビリ運動 発育をうながす水中運動	アダプテッド ダイビング教室 パーソナルスイム
スタジオ教室	バランスコンビネーション 健康体操 ベリーダンス 筋トレシェイプ	バランスボール HIPHOP 体育教室 パーソナルトレーニング

既存の教室

種別	事業名	
プール教室	成人水泳教室 水中ウォーキング 水中健康運動	スイミングスクール アクアビクス
スタジオ教室	ヨガ ピラティス エアロビクス	ズンバ 太極拳 フラダンス
屋内運動場教室	ゲートボール テニス フットサル	ドッジボール キッズテニス サッカー

- ✓料金体系の見直しにより、プール個別利用者の収入額を、年3%の上昇を目指していく。

割引前の収入額	7,480千円(10月～11月迄の2カ月分の倍)	増収666千円
割引中の収入額	8,146千円(12月～3月迄の4カ月分)	

割引増収(年間) $666千円 \times 3 \doteq 2,000千円$

年間上昇率 $2,000千円 \div 74,800千円 \doteq 3\%$

- ✓月額利用券の会員は、施設規模による制約を考え、スイミング会員240人、フィットネス会員210人を目途に獲得していく。
- ✓環境エネルギーセンターからの熱供給に併せ、光熱水費(特に電気と都市ガス)の節約を監視していく。
- ✓小・中学校の校外水泳授業の受入れ、利用促進につなげていく。
 - ・市全体では学校プール修繕・改修費用削減につながる。
 - ・インストラクターによる専門的な水泳指導
- ✓自主事業の講座内容の充実により、受講生を増加していく。
- ✓ナイトプールなど集客イベントを実施していく。

今後の対応による見込

- 経営は非常に厳しい状況であり、指定管理者からは指定管理料の見直し検討について申し入れ
- 市としては、暫く状況を見て、指定管理者と協議し、必要に応じて補正予算での増額を検討

	H30当初計画	H30実績	今後の収支予測
収入	利用料金 208,800千円 年間30万人 (旧施設閉館時の1.7倍)	利用料金 96,911千円 年間利用者18万人	利用料金 年3%上昇 (5年後は12,000千円増収)
	その他収入 56,300千円	その他収入 30,952千円	その他収入 熱供給と契約見直し 都市ガス料金 30,000千円削減
支出	光熱水費 100,000千円	光熱水費 107,503千円	光熱水費 電気契約の見直しにより 10,000千円削減
	人件費 102,300千円	人件費 69,725千円	人件費
	その他支出 126,600千円	その他支出 100,458千円	その他支出
損益	0千円	▲78,000千円	▲26,000千円

利用人数未達成

人件費の抑制

7月1日(月)	部長会議
	議会説明 大豆島地区説明
7月11日(木)	法規審査委員会
7月22日(月)	政策説明会
9月議会	議案提出
10月1日(火)	料金改定